

広島弁じゃけえ

ブライアン・ギルバード

1. はじめに

この研究のテーマは広島の方言についてである。ただし、ここで取り扱うのはその中の若者に使われているものに限る。広島弁についてはすでに、様々な資料や参考書があるが、ほとんどは古くて現在使われていない語や、時代おくれの情報が書かれてある。この研究論文では大学生の年代の若者に使われている語を抜粋して、詳しく記述する。これからの広島で暮らす留学生に役に立つ物にしたいと思う。広島の方言を少しでも理解できるようになれば、広島の人々ともっとコミュニケーションがはかれるのではないだろうか。

この研究論文ではまず方言の定義や「方言のイメージ」及び日本語学習者にたいしての方言教育などを述べる。そして、よく使われている25語を詳しく調査して、使用状況や待遇度や意味などを研究する。つまり、ある意味において本論は現在若者広島方言の語彙リストともなり得るものである。

方法としてはまず、広島弁と言われている72語を集めた。この72語は文献、広島出身者、インターネットのホームページなどから集めた。予備調査で、その72語の中で特に若者(大学年代者)によく使われている25語を選んだ。現在、若者に使われている広島方言はもちろん25語に限られていない。研究レポートのために、よく使われている語彙を25語に限った。

日本語はたくさんの方言があって、とても多様性のある言語である。各地の方言を少しでも学ぶと、多様性のある日本文化をもっと理解できるようになるのではないかと考えている。

この研究論文が読者に役立つことを希望している。少なくとも、読んで楽しむことができれば良いと思う。

2. 方言に関する先攻研究

そもそも方言というのは何なのだろうか。どうしたら方言と共通語を区別できるのだろうか。共通語と標準語という言葉の違いはなんだろうか。誰が方言を話すのだろうか。各方言にはイメージがあるのだろうか。日本語学習者に対して方言教育は必要だろうか。

2-1. 方言というのは何なのだろうか。

まず、『広辞苑』第4版(新村1991)によると、方言の意味は次の通りである；

①一つの言語が地域によって異なった発達をし、音韻・語彙・文法の上で相違するい

(2)

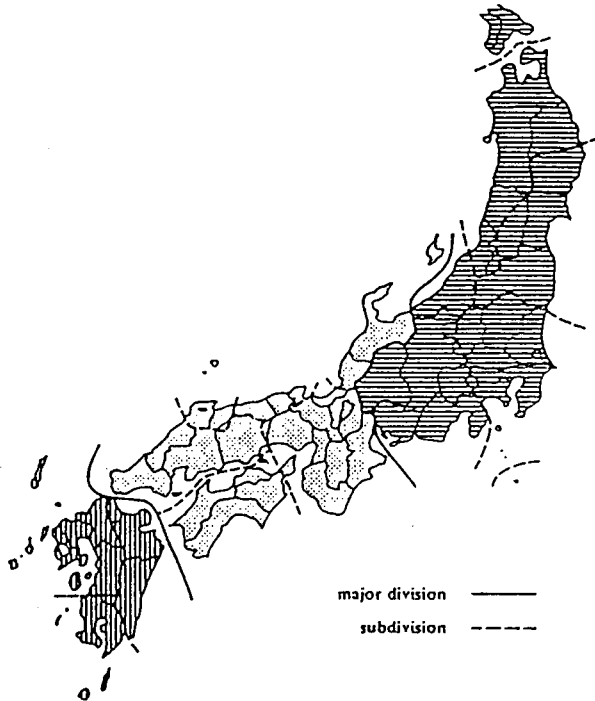
くつかの言語団に分れるとき、それぞれの言語の体系を指していう。なお、社会の階層によって異なる言語を階級方言という場合もある。②ある地方だけで使う、共通語と異なる語。(p. 2332)

2-1a. 方言の分類

日本を方言的に分けるのは簡単ではない。分類の仕方は様々である。語彙の違いで分類する方法、アクセントや抑揚で分類する方法や地方で分類する方法もある。一般的に考えられる分類方法は日本を関西と関東と九州の地方に分けるのである。その各地方の中にも、様々な方言が存在しているが、特に顕著な違いは東日本と西日本の方言である。沖縄の方言は多数の方言類でとても複雑であり、別と考えられている。下の地図を見ると、日本全国の分類がはっきりと分かる。地図は立体線で三つの地方に分れている。つまり、関東・関西・九州地方。この各地方は更に分れているが、大まかな方言分類を考えるとこの三つの分け方が一般的である。

図1. 日本全国方言分布図

The Languages of Japan, p. 189 (Tojo 1954)



次に、「方言」の意味をはっきりと認識するために、共通語と標準語の意味を知って置いた方がいいと思う。

2-2. 共通語と標準語というのは何だろう。

『日本語大辞典』(梅棹 忠夫ほか、1989)によると共通語と標準語の意味は次の通りである；

共通語：言語の違う人々の意志の伝達のために共通に用いられる言語(Common language)。

標準語：国や社会で音韻・語彙・文法などの点で、規範となることばの体系。(Standard language)

元来共通語と標準語というのは両方とも方言ではないという点においては同じ事である。NHKのニュースでは、標準語は使われていると言う。そして、広島大学で群馬県から来た教授の話の聞くと、共通語が使われている。標準語は教科書や公文書で使われている言葉だと思う。「非人間的」と言えるのだろうか。そして、共通語はある県の出身者が全く別の地方の出身者と話す時、使う言葉である。つまり、共通語は標準語より「人間的」で個人差があるのだろうか。どうして共通語や標準語を使うかという、地方的な言葉や表現(方言)を使うと、表わしたい事がなかなか伝えられないということが挙げられるであろう。例えば、どこの国に行っても、交通標識がある。この標識は国際的な標識が定められているが、まだ各国においては広まっていない。しかし、ほとんどの国でも、信号では「赤」は「止まれ」という意味を表わす。これが「共通号」といえるだろう。みな、観光客でも、国民でも、誰でも運転免許証を持っているひとであるならば、分かることである。

方言を使うか共通語を使うかという態度の選択は様々な事情により異なる。話し手の職業や地位や出身等、また場所(会社、学校、都市)や話し手と聞き手の関係や話題等も、全てその選択方法に影響を与えているといえる。

2-3. 方言と共通語と標準語の歴史

「万葉集」が書かれた759年(奈良時代)より方言の実存は確認されている。この頃、京都の方言が標準とされていた。京都は文化的、経済的に中心であったため、首都が京都から江戸へ移動された1603年にも京都の方言がまだ標準だとされていた。政府の主唱で、18世紀の終わり頃、江戸(現在:東京)の方言が標準と思われて始めた。標準語というのは、実際には存在しない。標準語を成立させるための基本として首都である、東京の方言が選ばれたすぎない。しかし現在、標準語という表現より、共通語という表現はよく使われてきた。

日本は西洋の国々ともっと緊密な関係を作るために、一つの言語が必要であった。この言語は標準語と呼ばれてきた。当時の政府の文部省はこの標準語を「正しい」とした。そのため当時、学校で方言を使った子は叱られた。この政策が方言を使っている人の劣等感の原因と言われている。第二次世界大戦の終わりまで政府はこのような政策を続けた。

第二次世界大戦後、共通語という新しい概念が発生した。これは方言の要素が入っているが、互いに理解ができる言語という意味である。

最近、マスメディアの急増で、共通語は各地のほとんどの日本の人々に理解されるよ

(4)

うになっている。このマスメディアは前代のお年寄りより、ヤングジェネレーションに大きい影響を与えている。年寄りが話す言葉と若者が話す言葉を比べると、その違いは顕著である。このことから、方言が序々に姿を消しつつある感じを受ける。

2-4. 方言のイメージ

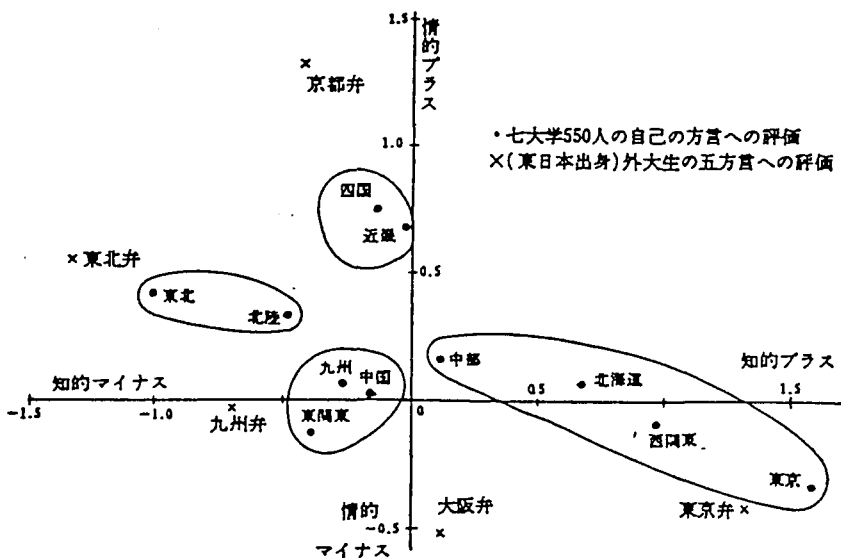
日本にはたくさんの方言があるのが確かである。方言研究者による、全方言は日本語なのに各方言にイメージが付いている。方言に対する「イメージ」というのは何なのだろうか。その方言を知らなくても、そのひびきを聞いた時人はなんらかのイメージを思い描く。「重苦しい」とか「柔らかい」とか「明るい」とかの形容詞を使って方言を述べる事が多いようである。

1980年山口県でのある面接調査で「どこの方言を話してみたいと思いますか」という質問がなされた。結果は40%の人が京都、15%の人が大阪と答えた。そして、「方言といえばどこの言葉を思い出しますか」という質問で50%以上は「東北」と、26%は「関西」と答えた。

方言研究者の調査による、方言にはイメージが付いているのが確かである。しかし、そのイメージをはかるにはどのようにしたらよいのだろうか。方法の一つに、井上史雄による「言葉づかい新風景」の中の調査がある。それは方言を情的・知的・郷愁の三つ観点から評価し調査するというものである。1980年に全国七大学の550人の学生に200個の語彙について評価してもらうものである。調査に使われた語彙は「情的+/情的-」と「知的+/知的-」によって評価された。結果は次の通りである。

図2. 16評価語の知的・情的±平均値

言葉づかい新風景(敬語と方言)、p. 207



CMで英語やフランス語がかなり使われている。それはある言語は美しいとか、かっこいいとか、各言語に対するイメージが影響していると思われる。そして、各言語にはステレオタイプもある。ロシアで話す人々はこういうふうに見られているなどのことはよく聞く。日本の方言もそうである。私が静岡県友人によく言われるのは広島弁は「怖い」・「ヤクザっぽい」である。自分の意見だが、広島弁は少し「粗い」だが、「下品」ではない。どうして、広島出身のひとに会った事がない人が広島方言を聞くと、イメージがくるだろう。おそらく、音楽を聞くと感動すると同じことだろう。

「方言コンプレックス」というのはもう一つの方言のもつ特性である。マスメディアでほとんど共通語が使われているから今のヤングジェネレーションでは共通語(東京弁)が都会的な話し方と思われた。その結果、特に大都会出身者に方言はなんとなく「ださい」と思われていた。方言研究者の調査による、前代のヤングジェネレーションが方言で話すのが恥ずかしいと考えた。これから、二つの問題が生じる。

1. 方言コンプレックス(方言使用者の劣等感)。多くのひとが方言は正しい日本語ではないと思っていた。これは第二次世界戦争が終わるまでの当時の政府の政策の影響かもしれない。とにかく、話し言葉の中に突然方言が出てくることを恥ずかしがる人が多かったようである。方言というのは東京つまり大都会の言葉(共通語)ではないから、話すとちょっと田舎っぽい感じがするという人はたくさんいた。だから、自分の出身が恥ずかしいと思ってしまう人は増えていたと言えるだろう。

2. 方言が序々に消えつつあること。共通語が次世代の選択になると、方言は序々消えてしまう可能性がある。マスメディアとマスコミュニケーションで共通語が日本全国に流れている。「方言はださい」という考え方が続いたら、方言はなくなる危険性がかなりあると思う。

運よく、現在の若者は自分の方言はかっこいいとおもっているようである。共通語が必要な状態で無理やり方言を使わないが、方言の言葉が適切な状態では、遠慮なく現在の若者によく使われている。

2-5. 日本語学習者に対する方言学

日本語の方言は教えるべき事か。それとも、方言は日本語学習者に不要か。広島大学の教育学部の日本語教育学科の教師と学生と留学生に方言の学習について尋ねた。皆は「日本語学習者の希望なら方言を勉強すること」と認めている。しかし、日本語学習者がある所にながい間(5年間以上)住むなら、方言を勉強したら生活は楽になることも認められている。方言を習うことにすると、日本語が中級になってから習った方がいいとある教師に言われた。なぜかという、中級までは共通語はまだそんなに得意ではないから、方言と共通語が交ぜてしまうと日本語学は難しくなるだろう。

以下は『もみじⅡ -ひろしまで学ぶにほんご-』(ひろしま国際センター、1994年)という日本語教科書からの日本語学習者に方言の紹介である。(p.100)

日本語には、地方によって、ことばの違い(=方言)があります。この日本語の方言を大きく分けると、東日本の方言と西日本の方言とに分れます。東日本の方言で「あたたかい」と言うのを、西日本の方言では、「ぬくい」と言います。「今日は家に居る」を、東日本の方言では「きょうはいえにいる」と言い、西日本の方言では「きょうはうちにおる」と言います。

広島弁も、西日本の方言の中の一つです。「難しい」は「むずかしい」では

共通: 「うそ、おごってもらったの?すごいいいね」

♂【4.57】・♀【4.29】「ええ」は「いい」と同じ意味であるが、雰囲気が違う。「ええ」の方にもっと情緒が入ってるって感じがする。確信的の「ええ」と関係があるかもしれない。

3. ~んさい ~してね、~たらどう?、~てみてごらん

方言: 「頑張りんさい、あとちょっとじゃけえ」

共通: 「頑張ってるよ、あとちょっとだから」

♂【4.71】・♀【4.76】命令の「~なさい」の省略は「~んさい」だと広島県外出身者によく言われている。確かに、時々広島出身者にも言われている。しかし、命令形の強制は含まれているのだが、「~なさい」ほど強くない気がする。だから、もっと適切な定義は「~てみてごらん」ではないかと思う。日本語学習者の意見何だけど、ちょっと女らしいというか、フェミニンな感じがする。しかし、使用は女性に限られている訳ではない。

4. こそばいい くすぐったい、むずむずする

方言: 「こそばいいけえやめてえや」

共通: 「くすぐったいからやめてよ」

♂【2.86】・♀【2.81】この語彙はあまり使われていないようである。ただし、若者にはあまり使われていないが、よく聞かれるので、お年寄りによく使われているのかもしれない。この語彙は予備調査の結果で、若者にかなり使われたが、この調査の結果であまり使われていないということは明らかになった。

5. こまい 小さい [低い、細かい]

方言: (TVの音量を)「ちよっともーしてえや」

共通: 「ちよっと小さくにしてよ」

♂【4.71】・♀【3.95】この語彙の男女使用差は大きい。集めた情報によると、ただ「小さい」という意味である。たまに「低い」とか「細かい」という意味も含むと聞く。例えば、「背がこまい」も聞いたことがある。

6. さばく 散らかす [放り投げる]

方言: (散らかされている部屋を見て)「あーっ、何さばいとるん?」

共通: 「あっ、なに散らかしてるのよ」

♂【4.57】・♀【3.43】男女使用差が大きい。紙などを散らかすという意味である。この語彙の男女使用差が面白い。

(8)

7. しばく 暴力を使って罰を与える

方言: 「こんどやったらしばく!」

共通: 「こんどやったら殴るぞ」

♂【3.43】・♀【3.24】これは共通語ではないが、広島方言でもないようである。あまり良い意味ではないので留学生は使わない方がいいと思う。意味は力を使って、いじめることをする。「たたく」や「なぐる」という言葉は「しばく」を説明するときによく使われた。

8. じゃけえ だから、つまり

方言: 「もうすぐテストじゃけえねえ、まあ勉強せんと」

共通: 「もうすぐテストだからね、まあ勉強しなくちゃ」

♂【4.57】・♀【4.71】これは留学生と他県者の立場から見ると広島弁のトレードマークのようである。「じゃけえ」は文章の最後の名詞の後ろのところで使うと、「~だから」という意味になる。そして、文章の始めのところで使うと「つまり、」や「だから、~」の意味になる。最後の言葉は動詞か形容詞の場合は、「~じゃけえ」が「~けえ」になる。

例えば、 1. 「明日は日曜日じゃけえ、休みなんよ」

1a 「明日は日曜日だから、休みなんだ」

2. 「明日、雨が降るけえ、傘を持って行きんさい」

2a 「明日、雨が降るから、傘を持って行ってね」

(話し合い中に話を聞いていない人がいて)

「ちょっと、聞いている?」

「あっ、ごめん」

「じゃけえね、.....(内容を説明する)」

ゆえに文章の最初のところには「けえ」は使えない。自分の意見だが、使用指標では女性の方がよく使うが、実際にこれはそうではないと思う。標本抽出の誤差だと思ふ。

9. ~じゃろ ~だろ

方言: 「昨日デートだったんじゃろ? 楽しかった?」

共通: 「昨日デートだったんだろ? 楽しかった?」

♂【4.86】・♀【4.81】これも「じゃけえ」のように広島の名物という感じがする。よく使われているが、初めて聞いた時、言っている人が怒っている感じがした。「広島弁は怖い」と言われる所以はここにあるあるかもしれない。この語彙は目上の人に文としては絶対使わないようである。しかし、「絶対」とはいきれないだろう。30人にしかアンケートを記入してもらわなかったので、100%確かではない。

10. たいぎい だるい、面倒くさい、疲れる

方言: 「これもやらんといけんのん? うわー、ぶちたいぎい」

共通: 「これもやらなきゃいけないの? うわー、むちゃくちゃ面倒くさい」

♂【4.86】・♀【4.81】面倒くさいとか、しんどいとか、疲れたという意味である。何か、努力必要なやりたくない事があつたら、よく使われている。

11. たう (手・足などが)届く

方言: 「ちょっと手がたわんけえとってえや」

共通: 「ちょっと手が届かないから、とって」

♂【5.00】・♀【4.76】この25語の中で、三つしか【5.00】の使用指標を当たらなかった。「手紙がたう」と言わないようである。「手」、「足」などにたいして使う。

12. はぶてる ふてくされる、(すねる)

方言: 「もお、いちいちはおてんなや」

共通: 「もう、いちいちふてくされんなよ」

♂【4.86】・♀【4.76】「はぶてる」というのは様々な意味を表わしている。「自分の気に入らない事があると、きげんが悪くなる」という説明は当てはまると思う。だから、「ふてくされる」、「すねる」、「いじける」などが含まれているようである。

13. ばり とても、すごく、非常に

方言: 「今日、ばり暑いのを」

共通: 「きょう、すごく暑いね」

♂【3.14】・♀【3.43】最上級の語である。この語彙は英語の「very」に踏まえられているかもしれない。まわりの人に対してよく使われているようである。

(10)

14. ぶち とても、すごく、非常に

方言: 「ぶちむかつく!」

共通: 「超むかつく!」

♂【4.57】・♀【4.19】意味に対して、「ばり」と同じである。しかし、「ぶち」の方が自分中心のことによく使うと言われた。だが、これは「感じ」・「気持ち」だから、人によって違うかもしれない。「ばりより、きつい感じがする」ということも言われた。

15. ひやい 冷たい、冷えている

方言: 「A: お茶ちょうだい。B: 熱いの? ひやいの?」

共通: 「A: お茶ちょうだい。B: 熱いの? 冷たいの?」

♂【4.71】・♀【4.24】お年寄りでも、若者でも使う。意味はただ「つめたい」とか「ひやされた状態」である。冷たい水は「お冷や」というから、これから「ひやい」が発生したのかもしれない。

16. みやすい 簡単、易しい

方言: 「あの問題みやすかったけえ、すぐできるよ」

共通: 「あの問題簡単だったから、すぐできるよ」

♂【4.71】・♀【4.52】これは「楽」、「簡単」、「易しい」という意味である。初めて聞いた時、ちょっと分かりにくかった。「みやすい」というと、すぐ「見るのが簡単」か「きれい」というイメージがする。

17. やおい 柔らかい、ソフト、気が弱い(やさしい)

方言: (食べながら)「この肉ぶちやおいのお」

共通: (食べながら)「この肉すごい柔らかいね」

♂【4.86】・♀【4.57】「物が柔らかい」というふうに使えるし、「あの人はやおい人じゃねえ」とも言える。しかし、「気が弱い」か「やさしい」という意味を表わすから、状態で分かる。

18. やれん やりきれない、我慢できない、嫌な感じ

方言: (悪いことが重なって)「もお、やれんよお」

(14)

ります。方言も進化している。現在の方言を文書で説明するのは非常に難しいと思う。

方言のイメージも挙げた。イメージを調査すると、様々な個人差のために結果が不利な影響を受ける可能性が大きいと思う。

方言教育のことも挙げた。方言は日本の文化の一部なので日本語学習者には必要に応じて勉強すれば良いとの意見が広がっているようである。

4.2. 筆者の意見

広島方言は面白いと思う。方言にイメージがあると書いたから、私の立場から広島方言はどんなイメージを持っているだろう。方言に対しての経験は少ないである。静岡県で一年間住んで、群馬県も一か月訪ねた事がある。もちろん、共通語にも経験がある。結局、私は広島弁を聞くとどんな感じがするか。「決意の固い」、「強くてカッコいい」、「少し怖い」、「ゆるやか」という言葉を使って説明が出来ると思う。

方言教育に対して、私の意見は多数の人々の意見と合っていないと思う。私は方言が日本語のカリキュラムに含むべきである。方言は文化の一部だということは確かであるが、日本語の方言は日本語の一部だということも確かではないかと思う。少なくとも、中級になったら、日本語学習者に方言を紹介するべきだと思う。

広島で日本語を勉強することにしたなら、広島弁を学ぶしかないと思う。広島弁だと知らずに覚える可能性があるから気を付けた方がいいと思う。覚えられない方がいい訳ではない。ただ、共通語のように使うと、困るかもしれない。

私はこの研究をインターネットのホームページにのせてあるので、ぜひ、友達に教えて下さい。

5. 参考文献

- | | | | |
|-------------------------|-------|------------------------|----------------------------|
| 1. 井上 史雄 | 平成元年 | 言葉づかい新風景 | 秋山書店 |
| 2. 金田一 春彦 | 昭和52年 | 日本語方言の研究 | 東京堂出版 |
| 3. 神鳥 武彦 | 昭和54年 | 日本語方言学 | 東京堂出版 |
| 4. 柴田 武 | 昭和42年 | 全国方言資料 | 日本放送出版協会 |
| 5. Shibatani, Masayoshi | 1990 | The Languages of Japan | Cambridge University Press |
| 6. 新村 出 | 1991 | 広辞苑 第4版 | 岩波書店 |
| 7. ひろしま国際センター | 1994 | もみじⅡ | ひろしま国際センター |
| 8. 真田 信治 | 1989 | 日本語のバリエーション | 株式会社アルク |
| 9. 町 博光 | 1991 | 今じゃけえ、広島弁 | 第一法規出版株式会社 |
| 10. 村岡 浅夫 | 昭和56年 | 広島県方言辞典 | 南海堂 |